

場所 長崎県五島市

面積 2.52ha

活動目的 崎山鐙瀬自然を守る会会則第3条（目的）では、地域の自然環境保全活動により会員の親睦と結束を図り、風景地保護及び生態系維持を目的としている。

郷土の自然と共に暮らす生きもの達を未来の子ども達に残そうとする自然共生サイトづくりは私たちの目指すものである。

サイト概要

本サイトは、長崎県五島市の崎山地区に位置し、西海国立公園鬼岳と鐙瀬溶岩海岸に囲まれた川の無い火山大地の集落地帯にある。単性火山群である鬼岳・火の岳の恵み、湧水を利用した水田が山麓にあったが、今は笹藪化している。藪化した二次林の他に、畜産用の飼料牧草、麦、タバコ、豆類などの野菜等、現在も農産物の生産が行われており、下記4か所のエリアにおいて、小学生等の野外実習の場としている。

①覚仙海岸ゾーンでは、小学生参加の海岸生物の観察を行うと同時に地域住民による清掃活動を行っている。

②馬込昆虫公園では、甲虫の付く樹木の植栽をし、林床草本で薬草探しを行っている。

③・④のコダ里山と池の山では、自然探検体験を行い自然の学びの場としている。



土地利用の 変遷

いずれのサイトも耕作放棄地で人の手が入らないことにより荒廃した環境であったが、これまでの清掃・整備活動によって多種多様な生物が見られるようになった。エリアでは、海岸・里山林・天然生二次林・池周辺として4つにゾーンを分け、子ども達と共に、野外自然の学びの場づくりから取り組んでいる。例えば、海洋ゴミの環境調査、畑の流土汚染調査、海辺の生きもの調査、虫媒花の樹種を植栽しての昆虫観察調査、二次林里山動植物調査などに利用している。

サイト周辺の 環境

①覚仙海岸は漂着ゴミ（海外物が多い）が多く、地域住民によって定期的に清掃活動をしている。②昆虫公園内の選別草刈りで、薬草の観察ができるようにしている。③林床は笹藪であり、猪の泥浴び場ともなっているので、笹刈りを行い、安全な野外実習・観察会ができるように整備している。④池の周辺は海岸生の低木個体群がびっしり生えている。

アピール ポイント

本サイトは海・野・山をフィールドとした4つのゾーンがあり、五島の自然の中ゾーンごとの生物多様性を観察できる。今までは夏休み・実りの秋・冬の焼き芋大会など子ども達を中心とした企画であったが、ゾーンごとの特徴を生かした動植物の観察が一般の方やツアー客も参加できる企画や、CD版郷土の生きものたちを作成するなど、生物多様性に対する関心を五島からも社会的に高めていくことに貢献したい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

②馬込昆虫公園ゾーン：1970年代までは野山にいけば畑法面の樹々にもクワガタムシ・カブトムシ・カナブン・オニヤンマなど昆虫を捕獲して遊んでいたが、現在は野で見かける事がほとんど無い。子ども達が2020年10月に植林したクヌギ・コナラも成長し、昆虫たちの復活を期待している。現在の馬込エリアでは、野草（雑草）の中に、薬草となる草本が生えており、子ども達の薬草観察の場となっている。

③コダ里山ゾーン：1965年以前、火の岳湧水を利用した田のある集落であったが、地区住民の移転後、山林も放置され藪林となっていた。2021年かつての里山空間を再生・回復させ、鳥の巣箱設置や昆虫・植物観察など生物多様性の大切さを学ぶ場所となっている。

【主な植生】

②馬込昆虫公園ゾーン：クリ、クヌギ、コナラ、梅、山桜など植栽したが、ヤマモモ、タブノキ、イヌビワ、アカメガシワ、ヤマクワ、ヤブツバキ等は実生からなる自然木である。またヨモギ、カラスノエンドウ、カタバミ、チガヤ、キランソウ、ノビル、ツルボ、ノアザミ、シロバナタンポポ等多種の雑草が昆虫公園内に自生している。

③コダ里山ゾーン：ヤブツバキ、ムラサキシキブ、ハクサンボク、カクレミノ、ヤツデ、ヤブコウジ、シュロチク、ツルゴショウ等が自生している。

【確認された主な動植物など】

両ゾーンでは植物75種、昆虫類4種、鳥類3種を確認している。本格的な調査は本年度から実施していくが現時点では植物がメインです。二次林の成長とともに昆虫類、鳥類の生息エリアとなるよう整備を行っていきますが、現時点での主な種類は以下のとおり。

植物類：クリ、クヌギ、コナラ、ヤマモモ、ヤマザクラ、ヤブツバキ

＜薬草として＞ ツツブキ、ツルボ、スイバ

昆虫類：カブトムシ、コクワガタ

鳥類：キジ、メジロ、ウグイス



写真の説明： 子ども達との記念植樹



写真の説明： クヌギ・コナラ成長記録・記念植樹祭

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

①覚仙海岸ゾーン：本ゾーンは海岸には礫部にハマゴウ・ハマエンドウ、溶岩岩場にボタンボウフウ・ハマボッサと多くの海岸植物、干潟にはイソアワモチなど多様な生物多様性を学ぶことができ、子ども達の夏休み学習会などで利用している。

②池の山ゾーン：本ゾーンの三の池は汽水池で二ナ類の生息を確認しているが、幹が捻じれたハマビワの古木も見られ、池周辺の植物を含めた研究調査の場として利用していきたい。

【主な植生】

①覚仙海岸ゾーン：海岸の植生はハマゴウ群集、ハマヒルガオ群集、ハマエンドウ群集、ネコノシタ、ボタンボウフウ、ツルナ、イワタイゲキ、ハマナタマメ、ハマダイコン群集等多種である。また、干潟ではイソアワモチが生息している。

②池の山ゾーン：池周辺にはハマビワ、ツルマサキ、トベラ、ヤマフジ、テイカカズラ、オオイタビなどが岩石を覆っている。

【確認された主な動植物など】

①覚仙海岸ゾーン：海辺の海岸植物63種を確認している。主な種は以下のとおりである。

海岸植物：ハマゴウ(*Vitex rotundifolia*)、ハマナタマメ、ハマヒルガオ、ハマボッサ、イワタイゲキ。

また、本サイトには含まれていないが、潮間帯の岩礁域やタイドプール等にも多くの生物が確認されている。



写真の説明：岩場のハマボッサ



写真の説明：ハマゴウ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
サイトは崎山地区の4か所を飛び地としたサイトであり、モニタリングにおいても同時に行わうことが難しいサイトである。なお、海辺の生物は潮間帯に合わせた調査となり、調査人員確保も含めた調整が必要となる。当サイトのモニタリング調査並びに生物リスト作成は質・量的にもこれからの取組にかかわることであり、自然共生サイトとして相応しいモニタリング体制を築いていく。 ①覚仙海岸ゾーン：海辺の植物、干潮時間帯での生物と調査種別が多いが、子ども達とのイベントを利用したモニタリングを夏休み期間を利用し年一回は計画する。土壌流入対策については台風通過後の観察とし、土砂侵入エリアの拡大を調べていくこととする。なお、範囲外ではあるが、海域のサンゴの白化現象についても専門家との交流を計画していく。 ②馬込昆虫公園ゾーン：夏休みの昆虫トラップ仕掛けによる個体調査を計画する。なお、昆虫誘致作戦が当ゾーンの目的でもあることから、崎山地区から絶滅しつつあるシバハギ、カワラケツメイが生息できる環境をつくり、タイワンツバメシジミの飛来に期待したい。 ③コダ里山ゾーン：崎山では両生類が確認できるゾーンであり、今後の調査に期待したい。なお倒木ギャップの観察は山の再生を知る教材であり、調査と含めたイベントを企画していく。 ④池の山ゾーン：これから入り口確保作業が始まるゾーンであり、調査にあたっては有識者の同伴を依頼しつつ進めていくことにする。	【モニタリング対象】 植物類、昆虫類、鳥類、哺乳類、爬虫類、両生類、海の生物 【モニタリング場所】 ①覚仙海岸ゾーン②馬込昆虫公園ゾーン③コダ里山ゾーン④池の山ゾーン 【モニタリング手法】 ①調査地点での直接観察（目視・鳴き声観察） ②ラインセンサス調査 【モニタリングの実施時期及び頻度】 ①実施時期（毎年度） 植物・昆虫類：4月と8月 鳥類・爬虫類・両生類・哺乳類：5月と9月 海の生物：4月～10月大潮（毎年1回）※サイト区域外。 【モニタリング実施体制】 ①崎山燈瀬自然を守る会メンバー単独 ②イベント観察会（参加者と合同） ③清野聡子氏（九州大学大学院 准教授）、上田浩一氏（五島自然環境ネットワーク代表）にモニタリング結果及び分析の助言を頂く